

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介するコーナーがステイ・スマイル(笑顔のままで)です。

Stay Smile



Stay Smile 高原のアーティストを訪ねて

東に八ヶ岳、西に入笠山を仰ぎ見る、さわやかな高原の町、富士見。この地に生まれ、または惹かれて制作する、素敵なアーティストたちを紹介します。

【今月のアーティスト】 大御堂 恵子（おおみどう けいこ）さん 人形作家・富士見町在住

大御堂恵子さんは、富士見町の出身。町内にある工房で、手作りの人形を製作しています。近年は、「マリコ」というキャラクターの人形をメインに、作家活動を精力的に展開しています。

2007年、富士見町内にある店舗での人形展を皮切りに、2008年は別店舗で展開、さらに2009年には原村の八ヶ岳美術館で人形展を開催。また、2011年からは「マリコ展」と銘打ち、町内と茅野市内店舗で作品を発表してきました。2008年には、ARTBOX ドール新人賞、ユザワヤ創作大賞で入選しています。

マリコは大御堂さんが創造したキャラクターで、「元祖マリコ」や「うさマリコ」など様々なバージョンがあり、その数は現在800を超えてます。どれも愛らしく、ユーモアに溢れています。大御堂さんのホームページでは、全てのマリコを紹介しています。その中には、「ルバーブ マリコ」や「井戸尻の遺跡にマリコ！？」など、ご当地バージョンもたくさんあり、富士見のPRや情報発信にも一役買っています。さらには、大御堂さん自身がマリコに扮し、地域のイベントに登場して会場を盛り上げることもあります。まさに地元密着型アーティストと言えるでしょう。生まれ育った富士見で製作活動ができることが、何より嬉しいと語る大御堂さん。今日も工房では新たなマリコが産声を上げていることでしょう。

【Information】 大御堂さんの作品は、手作り人形工房「木の葉」（☎0266-62-2148）

などでご覧いただけます。これからのお品展：カントリーキッチン カフェ（富士見町立沢）
10月11日（土）～22日（水） ホームページ：<http://malico.jp>

文：前島孝一（小海町高原美術館館長・清里フォトアートミュージアム職員）富士見町富士見在住
facebook <https://ja-jp.facebook.com/koichi.maeshima.1>



▲マリコたち



▲製作中



▲創造の森にて
© 大御堂恵子

Stay Smile ご存知ですか？ 災害救助用包装食袋

富士見町赤十字奉仕団

災害が発生し、家庭生活ができなくなった時、一度に多くの人の“食べる”ことを考えなければなりません。そこで、赤十字奉仕団では「包装食袋」による炊き出し訓練を実施しています。

特徴（利点）としては…

1. 災害時に最小限の材料で炊き出しできる。
2. 保存期間が長い。
3. 持ち運びに便利で、どこでも食べられる。
4. 食器や箸を使わずに食べられる。

ライフラインが使えなくなつた時などに有効です。



救急法講習会のご案内

赤十字奉仕団では、救急法の講習会も行っています。

「救急法について学びたい！知りたい！」という方、みんなで勉強しませんか？

平成26年11月5日（火）午後6時30分～午後9時30分 保健センター

「一次救命処置」（心肺蘇生とAED）

※参加希望の方は10月31日（金）までにお申し込みください。

問 申込 富士見町赤十字奉仕団事務局（住民福祉課 社会福祉係内）☎62-9144

Stay Smile 先輩から学び得た大切なこと

富士見中学校 男子ソフトテニス部

僕たち男子ソフトテニス部は、「挨拶をしっかりし、まずは県制覇」という目標に向けて、現在部員12名（1・2年）で活動しています。

6月に行われた中体連諏訪大会個人戦では2・3年生全員が参加し、3年生の2ペアが南信大会の出場を決めました。主に3年生で臨んだ団体戦では、惜しくも3位で南信大会には出場できませんでした。諏訪大会を勝ち上がった2ペアも南信大会で負けてしまい、3年生は引退してしまいました。

その3年生から試合中に声を出すことの大切さを教えてもらいました。試合中に声を出すためには、日ごろの練習から声を出すこと、日々の生活で挨拶を大事にすることが必要だと考えました。そして3年生の先輩方が成し遂げられなかつた県大会に出て制覇することができるよう、今は新人戦に向けて部活中の声や日常生活の挨拶などを、意識してやっています。

県大会を制覇できるように他校より人数が少ない分、毎回の練習を大切にしていきたいです。そして来年の夏、目標が達成できるように頑張りたいと思います。
(男子ソフトテニス部部長 曾我玲良)



Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で～子どもの領分を守るために～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

「伝える」ということ



人が社会の中で生きていく時に、自分の気持ちや考えを伝えることはとても大事だということを、私たち大人は簡単に実感できるでしょう。夫婦関係や職場の人間関係など、コミュニケーション不足が原因で摩擦が生じることは、日常当たり前のように起こっています。

では、子どもたちはどうでしょう。大人に対して自分の気持ちをどう伝えるでしょう。乳児のうちは泣くことで、笑うことで、体を動かすことで気持ちを表現しますね。少し大きくなると単純なことは言葉で伝えることもできます。

しかし、自分でも整理できない複雑な気持ちを伝えるときはどうでしょう。たとえば、妹や弟が生まれてうれしいけれど、お母さんを赤ちゃんに取られたようで不安な気持ち、入園して初めて親元を離れてお友達や先生と生活する中で感じるわくわく感の裏にある緊張感…。そんな複雑な自分の気持ちを客観的に見つめることができない子どもは、言葉でストレートに伝えられない「もやもや」を行動で伝えようとします。

そうです。子どもはいつも伝えようとしているのです。その方法が、しつこいくらいに甘えてくる、イライラしてお友達に当たり散らす、爪を噛む、大人に反抗する、など大人から見て一見望ましくない行動だとしても、ちゃんと伝えようとしてます。

今の子どもたちはコミュニケーション力が低下しているとよく言われます。それは、大人との関係の中で、子どもたちが行動で伝えようとしているのを、受け止める大人側の力不足が引き起こしているのではないか、と思います。

伝えようとしたことを受け止めてもらい「伝わった」という経験を積むことが、子どものコミュニケーション力を豊かにすることにつながります。あなたの気持ち受け止めたよと「大人が子どもに伝える」ことが先にあって初めて、子どものコミュニケーション力が豊かになるのだと思います。

